

主日礼拝

司 会

②石井 秀人兄

奏樂

祈 禱

②白川 達男兄

贊美

聖歌430番 ～御手を伸ばして～

パウロの祈り②

聖書朗読

ルカによる福音書10章25～28節

特別讚美

①②アサリオン／③④ボーマン師夫妻

メッセージ

「あなたも行ってそのようにしなさい」

石井 潤 牧師

聖餐式

賛美「主イエスの十字架の血で」

獻 金

聖歌 229番 ～アメイジング・グレイス～

祝 禱

お知らせ

〔司会者〕

贊美

～主イエス神の愛～

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします!☆

《今週のお知らせ》

★本日も礼拝の恵みを心より感謝致します。今週も主の守り、祝福を祈ります！

☆今週の祈り会は　○早天祈祷会：明朝6時。◎祈祷会：木曜朝10時半～、夜7時半～（大和の祈祷会に参加）。○準備祈祷会：土曜夜8時。

★来週の日曜礼拝も4回行います。〈司：石井秀人兄／祈：小山美枝子姉〉。

☆一年に一回聖書を完読できる！ *Bible Reading Plan* [10/10- /17]

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
旧約	イザヤ 50-52	53-55	56-58	59-61	62-64	65-66	エレミヤ 1-2	3-4
新約	ピリピ 3	4	コロサイ 1	2	3	4	1 テサロニケ 1-2:5	2:6-20
チェック	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇

「あなたも行ってそのようにしなさい」

～すでに与えられている豊かな神の恵みを意識する～

「イエスは彼らに言われた。『サタンが稲妻のように天から落ちるのを、わたしは見ました。確かにわたしはあなたがたに、蛇やサソリを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けました。ですから、あなたがたに害を加えるものは何一つありません。しかし、霊どもがあなたがたに服従することを喜ぶのではなく、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。』」

ルカによる福音書10章18-20節（新改訳：ドラマバイブルより）

本日の聖書箇所は「良きサマリヤ人」のお話です。“隣人とは誰のことですか？”という質問に対して語られたイエス様のたとえ話のひとつです。その質問をした律法学者はその前に、「永遠の命を得るために何をしたらよいのでしょうか？」という質問をイエス様に投げかけました。それに対して、イエス様はあなたの専門としている律法では何と言っているか？と逆に質問されました。それに対して、①神様ご自身を愛すること、②隣人を愛することをするようにと律法（旧約聖書）には書かれているということを答えます。イエス様もその答えを認めて、“あなたの答えは正しい。その通り実行すれば永遠のいのちを得られる。”と答えられました。しかし、それでも納得しないその律法学者は更に質問しました。その質問が冒頭の“隣人とは誰のことですか？”という質問でした。それに対してイエス様は何とも整えられた内容のたとえ話を語られました。普段から考えておられたのか、それとも、突然思いついたのか。イエス様を罵にかけようとした人物、また、自分自身の正しさを自己主張したくてたまらないような人物に対してイエス様はその攻撃的な態度に対して立ち向かうのではなく、優しくたしなめるように、そしてじっくり深く考えさせるようにして、また、実際に目の前で起きているような出来事であるかのように具体的に語られました。

イエス様は時々、人々の質問にお答えになるときや、メッセージをお語りになるときには、不特定多数の人に伝えるためというより、イエス様の弟子たちに対して語られることが多くあります。この律法学者に語った内容も、実は、その前に登場する72人の弟子たち。彼らを遣わし、そこから帰って来た所で語られています。その前に、天国に自分たちの名前が記されていることを最も喜びなさいと教えられます。確かにイエス様には偉大な力があり、その偉大な力を弟子たちに付与したことで、自分たちでは考えられないような奇跡をあらわすことができました。それは確かに偉大なことかもしれないが、そんなことよりもむしろ自分たちが神様に愛されて、その恵みの中に生かされていることを感謝すべきことを教えられました。この律法学者の質問についても、実は「自分が何をしたか？」ということではなく「どんな心で生きているか？」ということの方がもっと重要なのではないか？ということ。「祭司」「レビ人」「律法学者」たちに代表される人たちはユダヤ教という「宗教」に生きてしまっていました。しかし、汚れていると軽蔑されていた「サマリヤ人」に代表されるそんな宗教第一主義社会から排除されていた人をモデルとして語られたイエス様のお話は、「神を愛し、人を愛する」という神が求めておられる規準は、「宗教」の目からは決して見えないものであり、私たちがどれだけ神に愛され、神の恵みの中で生かされているかということをもっと意識するという内容なのです。